

中学生のディベート活動の実践例と生徒の英語の特徴

千菊 基司

本稿は、筆者が1999年度に担当した3年生3学期の授業で実施したディベート活動を中心にした授業単元の実践報告と、生徒の英語運用力の特徴をはじめ、活動を成功に導いた要因の記述を目的としている。

ディベート活動は、特に即座の反駁において、相手の発言の意図を理解し、意見を論理的に組み立てるための高い英語運用力も求められるため、中学生にとって負担の大きい活動である。しかしながら、本実践を経験した生徒は、グループ活動の助けもあって、批判的・分析的な準備が十分に機能し、英語運用力には不十分さを感じつつも、実践的なインターアクションが展開でき、困難を伴う準備に報いる結果が得られたという実感が持つことができた。そのような肯定的な感想を持った根拠は、生徒の作成した作文のパラグラフの構造分析や外国人講師のフィードバックにより明らかになった。

1 ディベートを取り入れたねらい

中学校の外国語学習の目標は「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」ことである（『学習指導要領』1999）。ディベートを体験するために、準備の段階で「読むこと」「書くこと」を必要とする言語活動を中心に行い、実際の討論で「聞くこと」「話すこと」を必要とする。それぞれの段階で相手の主張を予想・理解し、自分の主張を効果的に伝えるために、4技能をバランスよく鍛え、分析的・批判的に思考することが必要である。積極的にコミュニケーションする力を養うと想像される。また、ディベート活動は、言語と密接に関連した文化であるといえる。このことから、ディベートは中学校の外国語学習の目標にふさわしい活動だと言える。

教師・生徒が共に「ディベートは大変である」という印象を持つことは想像に難くない。生徒の英語運用力は、自分の言いたいことを表現するのに十分とは言えない。それを駆使し、皆の前で意見をいうことは相当な困難を伴うはずである。ほとんどの生徒は日本語を用いたディベートも未体験である。これらの不安を小さくするために、細かく段階つけた準備、中でも効果的なグループ構成・役割分担を考える必要がある。

4冊の検定教科書が直接でディベートを題材にしたレッスンやセクションを持っている。¹⁾ それらを参考にすれば、ディベートがどのような活動であるか理解することが可能である。ディベートというルールのはっきりした知的なゲームに参加するうち、生徒は「勉強なのにかなり楽しくやれた」「どっちでもいいじゃんと思いつ

つ、本気になっていた」ことに気づく。²⁾ この活動が積極的にコミュニケーションする態度にどのような結果をもたらしたかは、第4節で考察する。

中学生の知的水準と英語運用力とのギャップを埋めるためにディベートに至る準備が大切であるが、この実践の手順は第2節で報告する。生徒の作文などのパフォーマンスを分析し、どのような下位技術がディベートの成功をもたらしたのかを第3節で考察する。

なお、1999年度における3年生の英語の授業は週あたり4時間で、そのうち1時間は外国人講師とのチームティーチング(TT)であった。筆者は、3年生3クラスのうち、1クラスはTT(1時間)のみ担当し、他の2クラスには4時間も担当した。本稿で資料として引用されるアンケートなどは、4時間も担当した2クラスの生徒が書いたものである。

2 ディベート活動を中心とした単元構成と単元設定の根拠

教科書はSunshine English 3を1999年2学期末までに一通り終わった後、筆者が自主教材を構成した。まずタスク中心でシラバスを編成し、その実施に必要な題材を含む読み物を、複数の検定教科書より選んだものであるが、ここではディベートの実践に直接関連した単元を2つの段階に分けて記述し、単元構成のねらいを述べる。なお、冬休みの宿題として、生徒はこの読み物教材よりNew Horizon 3: Lesson 8 "Why should we study English?" (pp. 66-68)を予習することを求められた。³⁾

2.1. 第1段階

この段階の言語活動の主な目的は四つある。(1)教科書の教材を利用して、ディベート型の言語活動に必要な語

彙や言語形式のインプットを生徒に与えることである。ディベートのトピックに直接関連した内容や(例: エスペラント語の存在, 英語を話す人口を他言語と比較する等), 自分の意見を示すための表現形式には注意して授業展開した。(2) 8人のグループを構成し, グループ内でディベートの戦術をお互いの考えを出し合って考えさせることによって, 批判的・分析的な思考をより深めることである。(3) 反対の立場の意見を尊重しつつ自分の意見を述べる説得的な文章の段落構成に慣れさせることである。これは, 読むことや聞くことのような受動的な活動においても機能するスキーマを身につけることになる。(4) 外国人講師(ALT: Jeffrey Edwards)とディベートさせることで, 自分たちの準備の不十分さや英語力の不備を意識させ, さらに学習する意欲を高めることである。お互いに準備が不十分な生徒どうしが対戦するとディベートが不成立となった時の責任を, 相手にあるとすることが予想される。この段階では, ALT(1人)対生徒(8人)というディベートを体験させることで「なんとかしっかり準備をすればその分だけは伝わった。大変だが, 更に努力が必要」, と考えさせることが可能になる。

以下の日付は, あるクラスの実際の時間割をたどったものである。参考までに付記しておく。

第1回 1月12日(水) 教科書Lesson 8 pp. 66-67
(教授過程は省略)

本文の内容理解と, "We should study English." "We don't have to study English." というテーマでディベートを行うために必要な語彙や, 意見を述べる機能を持つ言語形式に注目させる展開の授業。このテーマをディベートの題材に選んだ理由は, 生徒が自らの学習を説明することで, 客観的に自己の行為の妥当性を自己表現することになり, 高い動機づけを引き出すと期待するからである。

第2回 1月15日(土) 教科書Lesson 8 pp. 68-69

第1回と同様の方針で授業を展開する。その後ワークシート<資料2>を配布し, ディベートをする事を前提に作業を行うことを理解させる。そのために人の意見に反論するためのマナーとして, 反対の立場の意見(の共感できる部分に)に対して同意する練習を行う。

第3回 1月17日(月) 第2回の続き(作文演習)

前時の作業を継続・発展させる。ここでは50語程度に簡潔に自分の主張をまとめる。反対の立場の意見に共感して譲歩した後, 自分の意見を述べるパラグラフ構成や, 自分の意見をサポートするような説明を加えることを条件とした。

第4回 1月17日(月) ディベートの準備

第3回の授業で提出させた作品を, 各グループ別に人

数分印刷して配布し, ディベートの作戦準備を行わせる。まずグループのとるべき立場(どちらでもよい)を明確にし, 意見をまとめさせる。グループ内の異なる意見は, 反論の予想に直接活かされることを強調する。グループのメンバー構成は出席番号順に筆者が決定する。⁴⁾ 各グループの持ち時間は10分程度と予告し, 準備を進めさせた。今回の実践においては, グループの中でどのような協力体制であったかは記録・分析していないが, 準備の様子を見ていると, ほとんどの生徒が非常に協力的であったし, グループ活動に貢献しようと努力しているという印象を持った。(作業用紙は<資料3>)

* 1月19日(水)は冬休み課題テスト。1月21日(金)は課題テストの返却・解説を行った。

第5回 1月24日(月) ディベート 各グループ対ALT

授業時間内で打ち合わせが終了していないグループはこの日までに放課後などを利用してグループで準備し, 筆者の指導を受ける。

いよいよディベートに参加。この活動に参加した感想は第4節で紹介する。

待ち時間は翌週のALTとの会話活動(今回のディベートの主題と直接関連はない)のための準備として, 長文を読み, ワークシートを頼りに読みを深める。

* 1月24日・25日・26日は他の教材を用いた授業を行った。(内容省略)

2.2. 第2段階

この段階では次の目標を持って活動を展開した。(1) グループの人数制限は教師が設定したものの, 生徒がグループを自由に選ぶことができた。これはグループ構成員間のより強い結束を想定し, その結束は, 事前の打ち合わせを最大限に効率的にすると考えたからである。(2) 生徒の日常生活により密接なテーマを選ぶことで心理的負担を軽減し, よりディベートに親しみを持たせることで積極的にコミュニケーションする態度を養う。(3) 生徒間で意見を対立させることで, 自分の主張を述べるときに必要な譲歩・説明を意識して文章構成ができるようになり, 文章の質が高まる。(4) 相手の言っていることをよく理解することがディベート成功のために必要であることを意識させる。このためには, 話す側・聞く側双方に努力が必要であることを認識できればよい。

第1・2回 1月31日(月) 第2段階の趣旨説明・ディベートの準備

生徒は4~6人グループでクラス内で4つの対戦を組み, 制限時間は合計12分までとした。まず日本語で意見を箇条書きにしながらかえをまとめさせた。その資料を

英語版に発展させた。提出締め切りは2月2日(水)。
ハンドアウトは<資料4>。

*2月1日(火)・2日(水)は他の教材を用いて授業をしたため、作業は放課後に共同で行われたか、自宅で個人作業となった。2月4日～14日まで「中・高入試業務」のため、この班活動はいったん休止となる。

第3回 2月15日(水) ディベートの最終準備
約2週間授業を受けていないので、この1時間のゆとりは妥当であったと思われる。

第4回 2月23日(月) ディベート1回戦
実施要項：各対戦12分

- (1)toss of the coin
 - (2)opening speech (2 minutes each)
 - (3)質疑応答 (2 minutes)
 - (4)反論準備 (2 minutes)
- *相談時には日本語の使用可
- (5)先攻チーム攻撃 後攻チーム防御 (3 minutes)
 - (6)後攻チーム攻撃 先攻チーム防御 (3 minutes)
 - (7)comments from the teachers

対戦チームが順番に会議室に入室し、上記のようなインフォーマルな形式のディベートを行う。それぞれの勝負の判定は特に行わないが、生徒のディベートのパフォーマンスはALTにより〔内容・効果・協力・英語〕という4つの観点で5段階に評価され(<資料1>)、決勝進出チーム(4組)を決めるための資料とした。他の生徒は、別室で待機して出場に備えていた。

第5回 2月25日(水) 決勝進出チームへの指導
2回戦進出の生徒達(3クラス・12チーム)を放課後1つの教室に残して、授業や活動の意味を説明し、更に改善する必要がある部分を指摘する。

第6回 3月1日(月) ディベート決勝
見ている生徒は、自分たちの取り組みの不十分な部分はどこかを考察する。発表者は相当緊張するようだが、生徒どうしのプレッシャーはよりよい準備につながると考えたい。

3 ディベート活動を通じて見えた生徒の学力

第1段階では、教科書の本文を題材にしてまずはディベートを体験させることを主眼とした活動を行った。しかし準備不十分で参加しても、ディベートに対して否定的な印象を生徒に与えるだけの結果に終わると予想される。そこで、「英語を学ぶべきである」「英語を学ぶ必要はない」のどちらかの立場を選択して、自分の考えを50語程度の英語でまとめる課題を与えた。活動の過程で、この作文には教師からの直接フィードバックは与えられなかったが、その後のグループ活動の資料として大変重

要な役割を果たした。

第3節ではまず、作文を分析し、生徒が教科書に提示されている観点を利用し、自分の考えをライティングを通じて表現できているかを考察する。

スピーキング力については、第2段階で2クラス16グループを<資料1>のような評価用紙を用いてALTが評価した。この内容から、生徒のスピーキング力の考察を行う。

3.1. 生徒の作文に見られた特徴

第1段階第3回の授業で完成された生徒の作文をパラグラフ構成で評価すると、(1)意見-展開(譲歩節・文を含む/事例説明などを加え、説明を加える)-結論(2)譲歩や説明で始める-自分の意見(3)意見-展開(お互いに関連しない観念の列挙)(4)どちらの立場か不明、の4種類に分けられる。第3回の授業中で回収できた69人分の英作文を上記のカテゴリーで分類すると、(1)が41人〔全体(82名)の50%〕、(2)が10人〔同12%〕(3)が16人〔同20%〕であった。(4)と未提出を合わせると15名〔同18%〕であった。ディベートでは発表段階で既に発表者がどちらの立場かが分かっているため、(1)と(2)はディベートの準備のグループ活動の資料としては同じ価値を発揮すると考えられる。つまり、ディベートを意識した読解・作文活動の結果、62%もの生徒がグループ活動に積極的に貢献できるレディネスを備えていたことがわかった。

相手の主張の具体的な内容や大切な部分を聞き取るときに、あらかじめ意見を予測しておけば活動がかなり活発になるのは言うまでもない。同じように、自分の意見も、反対の立場の意見に対して譲歩しつつ展開すれば、より効果的に伝わるであろう。効果的なパラグラフ構成の理解がディベート活動において果たす役割は大きい。

*①～④それぞれの作品例を脚注⁵⁾で紹介する。

3.2. 実際のディベートで見られたスピーキング力

2クラス16グループについて、ALTが評価用紙で、“Good opening”等の表現で肯定的にコメントしたグループは11に及んだ。一方、明らかに原稿を読んでいたとして2グループが指摘されていた。準備したものを英語で発表する、という活動にはかなり順応して、力を十分に発揮できたと言える。

“Good response”というグループは7グループあった一方、明らかに反応が悪いとされたグループは5グループあった。事前に心配したように、限られた語彙などを駆使する技術が十分に育っていないことが明らかになった。反応の悪さは、英語力の不足かグループ内での意志統一の不徹底か判断つきかねるところがあるが、聞き手の持っていた仮説が崩されたときにどのように振る舞うか、ということに対しては今後も継続して指導過程で意

識していく必要性を感じた。

4 生徒の「積極的にコミュニケーションする態度」における成果

筆者の1999年度の最後の授業で実施したアンケートの、「今年の英語の授業で（外国人講師のティームティーチング、休暇中の課題、テスト等も全て含めて）印象に残っているのはどんなことですか（自由記述）」という項目に対して、2クラス82名の生徒のうち、55名が何らかの形で「ディベート」について述べている。16名は自分の力のなさや大変さを述べたにとどまっているためどのように活動を評価しているか解釈が困難であるが、明らかに拒否反応を示したのは2名（全体の2.4%）で、37名（同45%）がこの活動を肯定的に評価している。このことからこのディベート活動が「積極的にコミュニケーションする態度を養った」と考えている。⁶⁾

また、第1段階終了時に回収したディベート活動に対する生徒のコメントによると、英語で意見を交わすことの楽しさをわかりつつある生徒の様子が窺える。例えば以下のようなコメントがあった。「外国ではこういうディベートとかよくしているんだなと思った。意見を言うのはいいことだと思った。」「ジェフ先生の言うこともあって、私たちが言っていることもあって、意見の交換をしたら、また別の意見が出てくると思った。」「自分の言いたいことが言えて、ジェフ先生が共感してくれたのがよかった。」「数回つまったけど、そう長い時間ではなかった、やってみると意外と楽しかった。」

また少数ではあったが、ディベートを成功させるために必要なことをコメントしていた生徒もいた。冷静に活動を見つめているものである。「日頃から新聞を読んでいたおかげで、助けられた部分があった。」「討論するにはそれなりの知識が必要だとわかった。ジェフは色々なことを知っていて完敗だった。」

一方で、自分の言いたいことをその場で英語にする力の不足から生じた無力感の伝わるコメントもあり、指導の難しさを感じる。しかしこの悔しさを動機付けに変えられるかどうかは、日頃の英語学習全体を通して、成長過程における誤りの持つ意味をどう理解させるか、教師がいかに生徒の英語学習のプロセスに関わるか、ということによって相当部分解消できるはずである。また、自分が即興で反論する力がないことが理解できたということは、相手の言っていることが理解できてこそわかることである。リスニング力が高まったのだと、生徒に肯定的にフィードバックする事を留意した。例えば次のようなコメントがいくつかあった。よく聞き取れていることが何

える実例である。「"In twenty or thirty years, Chinese is more and more powerful. Why don't you study Chinese?" って言われて、もうなんと言っているのかわからなかった。」言葉の学習が直接異なる文化に対する理解へとつながっている例もあった。「ジェフが"Don't forget your language and culture."と言っていたのが印象的だった。その通りだと思う。」「『英語ではなく、笑顔が共通語では』と言われたけれど、それでは詳しいことは何もはなせないような、、、」「ジェフは自分の国や文化をととても誇りにしていた。その意志にも僕は完敗だった。」言葉と文化の学習は切り離すことはできないが、そのことは生徒が自分で意識できたようだった。特にネイティブスピーカーとの対戦であったため、その意識が強まったのであろう。これらの「発見」は、生徒の積極的にコミュニケーションする態度を更に強めたことと確信している。

5 まとめと課題

ディベート活動に参加した大半の生徒は、「楽しかった」あるいは「大変だけれども自分の意志をつたえることができうれしかった」と感じている。これは漠然と生徒が得た印象ではなく、主題を批判的・分析的に検討して得られた意見を、確かな英語力と論理的なパラグラフ構成で表現したディベート活動に参加することによって得られた感想であることが明らかになった。ディベートの持つゲームとしての特性、グループで活動する必然性もまた、多くの生徒を無意識に活動に引き込んでいたのであろう。本稿では、グループの中での支え合いや相互影響については特に分析の対象とはできなかったが、こちらの意図通り機能したことも見逃すことはできない。

今後はディベートのようなインターラクティブな活動を今まで以上に積極的にシラバスに取り入れ、限られた語彙で意思を伝えるストラテジーを身につけさせる必要性を感じた。

注)

1) New Horizon（東京書籍）ではDiscussionの様子が、Everyday English（中教出版）ではDebateの様子が、それぞれ1レッスン用いて記述されている。Sunshine English（開隆堂）とTotal English（秀文出版）では、前述の2つの例ほど大きくは取り上げられていないが、討論形式の対話文が掲載され、討論に便利な表現がまとめられてある。

2) 引用された感想はアンケートで生徒が書いたものであるが、内容は第4節で説明される。

3) 予習の目的として強調したのは、「分からないところ

をはっきりさせること」である。ノートの形式は特に指定しなかったが、全文を写す例や、分からなかったところ・大切だと思ったところをあらかじめノートに書き出しておく例等を紹介した。ノート点検等により、意図が理解されていることを確認して授業を行った。

4)当校では1～4年において週あたり1時間のティームティーチングを実施しているが、1997年度頃よりクラスを5つに分割した小グループによるALTとの会話活動を積極的に取り入れてきた。1999年度の3年生は、グループを固定し、1年間を通してSTEP interview test, show and tell, talking about English/American culture, debate等の活動を行った。各グループの持ち時間は10分で、残りの時間はLL教室でリスニングの演習を行ったり、長文読解活動を自習したりした。

5)各カテゴリーの作品例を紹介する。なお、作品は生徒が書いたものをそのまま載せてある。

(1)意見－展開（譲歩）－結論

I want to talk with a lot of people. But it is difficult to learn many different languages. So I should learn English. I think that Japan will be international. A lot of people will come to Japan. I will have a lot of chances to talk with foreign people.

意見－展開（説明）－結論

I think it is important for us to learn English. If we can speak English, we can understand each other in most of the countries in the world. Why is English spoken most widely? England was most strong country. It is one of a reason to it. I think English is the easiest language to understand. I think it is one of a reason to it, too. So we choose English.

(2)展開（譲歩）－結論

We are live in Japan. So I may be able to speak only Japanese. But, English is spoken in many countries. So when we go abroad, we need English. So it is important to study English.

展開（説明）－結論

More and more people come to Japan from abroad, and Japanese people go abroad, too. Then if all people in the world can speak a common language, it is very useful. And many Japanese have already studied English and many people in other countries can speak English. So, we should have English as a common language. And we should study English better.

(3)意見－展開

English is spoken in the world. So I want to speak English well. I think, English is useful, and we have to use English someday. Then if we speak English, we can do something for foreign people who speak English. We won't have chances, but English is interesting. We should study English.

*十分なsupporting sentencesがなく、主張があまり深まっていないものをカテゴリー(3)に分類した。が、(1)との線引きは非常に難しかった。この例でも譲歩している部分もあり、教師の意図は読めていると思われる。

6)ディベート活動以外については、他のTTの活動(15名)、読み物教材(12)、英語日記等のライティングの課題(5)、教科書の印象的な題材のこと(1)、定期テスト等の成績のこと(6)、授業の活動のこと(3)、スプリングコンテスト(2)、その他(5)であった。複数回答が可能であったため、合計は82を越えている。しかし、圧倒的な割合でディベートについて生徒が言及していることが分かる。

参考文献

葛城忠彦(1999)「表現・発表活動の指導－ディベートを中心として」第25回全国英語教育学会北九州研究大会自由研究発表資料

中島洋一(1997)『英語のディベート授業30の技』明治図書

藤井哲也(1998)「積極的に英語を使う活動実践例～ディベート」達人セミナーin広島 ワークショップ資料

<資料1>ディベート（第2段階）の評価用紙

Evaluation Form	3rd grade	Debate - 1st round	
		February	2000
Group <u>1</u>	Mos · McDonald's		
Content · Analysis		⑤ · 4 · 3 · 2 · 1	
Effect · Rhetoric		5 · ④ · 3 · 2 · 1	
Cooperation · Manner		⑥ · 4 · 3 · 2 · 1	
Oral Presentation Skills (including English)		5 · ④ · 3 · 2 · 1	
Comment (if any)	opening speeches well prepared. Good counter attack. Good response		

Evaluation Form	3rd grade	Debate - 1st round	
		February	2000
Group <u>6</u>	Mos · McDonald's		
Content · Analysis		⑤ · 4 · 3 · 2 · 1	
Effect · Rhetoric		5 · 4 · ③ · 2 · 1	
Cooperation · Manner		5 · 4 · ③ · 2 · 1	
Oral Presentation Skills		5 · 4 · ④ · 2 · 1	
Comment (if any)	Opening speeches well prepared. Entertaining little "skit". A little slow in coming back.. Too much conferring in Japanese.		

<資料2> 作文課題用紙 : 個人作業シート

教科書の意見を参考に、自分の意見をまとめる練習。
下半分は生徒の意見。

3年 組 番 名前 _____

Why should we study English? まとめ Let's enjoy debate! 2000.1.

来週 1/24 の IT では、「ジェフ先生(1人)」対「みなさん(各級) (8人)」で「ディベート」を行います。
各級で、英語を学ぶべきである、という立場か、反対の立場をとってもらいます。そして、ジェフ先生とディベートしてもらいます。
ディベートを成功させるには、自分の意見を考えるときに、反対の立場の意見を考えることも不可欠です。書かれてから反論を考えては制限時間内に終わりません。今回のディベートは正式のものではありませんが、高度な活動につながるように、しっかり準備してもらいます。また、相手の意見に反論するときに、人格を攻撃してはいけません。それは口論につながります。つまらない思いをしないよう、準備しましょう。

黒題: プリント冊子(14)(15)ページを隠して、
(1)A (賛成) 1 ~ 5, B (反対) 1 ~ 5 の意見の3つに、英語で反論してみてください。
それほど長くなくてもいいですよ。
(2)それらの意見を参考にして、あなたの意見を 50 語程度の英語でまとめて、右の用紙にまとめてください。 提出が切 1/20 Thu. 8:55

(1)例 B-5
You are right. But you must see the reality. You have to take English test if you want to become a college student.

<資料3> 第1段階の作業用紙

Why should we study English? ディベート編
クラス 3-C 3 班 班員 M.I.I.U.H.H.M
自分たちのとる立場 ④ We should study English. B We don't have to study English.

予想される反論と、それに対する反論 (5つ以上)

意見 (箇条書きに)

- The keyboard has only Alphabet, In the future, we need more computers. We don't have to remember other languages now. → Make the keyboard in Japanese → Japanese use many more characters than English, but, English don't have many words.
- English is one of international language. I can talk with foreigner in English. → Why? to speak many people.
- I think we should learn English better than don't need to learn it.
- English is the most international language.
- English is used by great number of people and countries. → Use another language. → I don't know another language.
- If we can't speak English in travel, we are in trouble. → Don't travel abroad, → I want to go abroad.
- More and more people come to Japan from abroad.
- So we have to use English even if we don't go to foreign countries. → why? → English is known to a lot of people.

役割分担・意見を言う順番等 具体的な作戦をメモ

M → I → U → H → H → M

★提出は本日 16:40 まで 必ず完成させてから下校。

<資料4> 第2段階の作業用紙

3-A B ④ 1 班 <役割分担> ☆(代表) T
①最初に意見を言う人 U U I

3-C 1 班

②反論をする人 K Y
反論(英語) 相手の意見(予想)は日本語で、自分の意見は英語で

口本、自然、水、サベ、ス、和点について

《英文原稿》

① First, the taste is very good.
For example, french fries are bigger than those of any other hamburger shop.
And there is rice burger in Mosburger.
So we can enjoy both western taste and Japanese taste.
Desserts are also sweet, and healthy.

② we can know the names of the farmers who grow the foods. So we can eat them with relief.
Food fiber is rich. For example riceburger with "kinpira".
We can feel seasons. For example there is sweet red-bean soup with rice cake in winter. So it is good for health.

③ The service is very good.
Kinds of hamburger and dessert are rich.
So we can take pleasure in choosing.

高い Mosburger is more expensive than other hamburger shops. But we can know the names of the farmers who grow the food So we can eat them with relief.

小さい Mosburger's hamburger is small, so we can eat salad and soup. It is good for the health. Though we need a lot of time, we can eat hot foods. If you don't have much time, you order Mos on telephone and telephone charges back us.

④ 再反論する人 T U
攻める人

We have heard of two McDonald's rumors. One McDonald doesn't use real beef. And the worker of McDonald said, "I don't want to eat McDonald's hamburger." "What do you think of this? Can you eat McDonald's hamburger with relief after you heard this thing?"

※提出は 2/17 (木) 13:00 英語科 (千菊) まで